

第10期介護保険事業計画における介護保険料の負担軽減について

① 第9期港区介護保険事業計画期間の介護保険料の改定と給付準備基金の投入

第 8 期	第 9 期
給付準備基金投入 2.4 億円	給付準備基金投入 15.5 億円
所得段階 17 段階	所得段階 19 段階 多段階化・料率の見直し・基準額引上げ
保険料収納必要額 約 129 億円	保険料収納必要額 (153.5 億円 - 15.5 億円) 約 138 億円
保険料基準額 月額 6,245 円 年額 74,940 円	保険料基準額 月額 6,400 円 年額 76,800 円
	前期比 基準額 +155 円

質問時使用パネル

第10期介護保険事業計画の 介護保険料の負担軽減を!

**高齢化の進展で
介護サービス需要が増加**

高齢者の増加に伴い
介護サービス需要は
今後も増加が見込まれ、
**介護保険料の上昇が
懸念されています。**



**第9期は基金の投入で
保険料の上昇を抑制**

港区では、
約25億5千万円の
給付準備基金のうち
15億5千万円を投入し、
保険料の上昇を抑制
しました。



特に年金収入などを主な収入とする
低所得の高齢者にとって、

**保険料の上昇は
大きな負担に!**



区への質問 低所得者の負担増を抑えるために、
第10期にどのように取り組むのか?

1 給付準備基金の活用を!

現時点での**基金残高**と**今後の見込み**は?
第9期と同程度、保険料上昇抑制に
活用できるのか?



2 所得段階のさらなる多段階化を!

高所得者の所得段階をさらに細分化し、
低所得者の介護保険料の**上昇を抑制**すべき。



低所得者 (負担を抑制) 高所得者 (負担を強化)

② 第9期港区介護保険事業計画期間の介護保険料の改定と、保険料所得段階の多段階化

※第1～3段階の()内の数字は、低所得者負担軽減前の金額及び料率を記載しています。